第36号(発行:平成26年 7月18日)

Monthly YSFH News (Electronic version)

発行 : 横浜市立横浜ｻｲｴﾝｽﾌﾛﾝﾃｨｱ高等学校　TEL:045-511-3654　FAX:045-511-3644
HP:http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/sidou2/koukou/sfh/

6年目を迎えた本校は、スーパーサイエンスハイスクール・スーパーグローバルハイスクールの指定校になり、ますます注目される学校となってきました。サイエンスリテラシーの研究成果をはじめとするサイエンス教育の充実に加え、グローバル・リーダー育成という新たな使命を得て、その実現に向けた取組も始まりました。また、10月に行われる2年次(5期生)のマレーシア海外研修旅行に向けての準備も本格化しています。

生徒たちは7月上旬に期末テストを終え、夏休みの計画を練っています。学校は7月23日に終業式を迎えますが、翌週には面談期間を設定し、学校と家庭が力を合わせて生徒の成長を支えていこうと考えています。また、出場4年目にして硬式野球部が神奈川大会初勝利を収めるなど、学業と部活動の両立を結果に残しました。

これからも、引き続き学校の情報を発信してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【オープンスクール】（５月３１日）

朝９：００～夕方１７：００まで、平常授業（平日の生活）を公開し、多くの方々にご来校いただきました。来校者の合計は７７２名（うち中学生３０１名、保護者４０１名）で、小学生の来校も５０名ほどありました。もちろん今年も本校生徒の保護者も来校され、授業参観ムードもありました。放課後の活動では、サイエンス系の部活動の実験の様子や説明を、中学生とお父さんたちが熱心に見学してくださる姿が印象的でした。

次回１２月１３日（土）のオープンスクールでは、例年通り、本校の特徴的な活動を公開する予定です。 小・中学生、保護者、地域の皆様他、多くの方々のご来校をお待ちしております。

【グローバル人材シンポジウム】（６月１日）

法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎「薩埵ホール」にて開催されたシンポジウム「グローバル・リーダーを育てる中学・高校の学びとは」に、栗原校長と２年次生６名が参加しました。

第１部の柳沢幸雄先生（開成学園校長）によるハーバード大学方式の公開授業に参加した男子生徒６名は、鴎友学園女子高、法政大学女子高の生徒たちとともに、７０分の「問題解決型」授業で積極的に発言することの大切さを学びました。

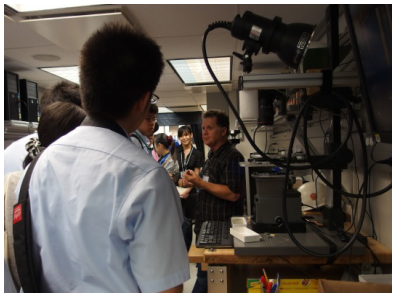
また第２部の公開シンポジウムでは、有馬朗人先生（元文部大臣）、田中優子先生（法政大学総長）、吉野明先生（鴎友学園校長）、柳沢幸雄先生とともに、栗原校長がパネリストの一人として登壇し、グローバル・リーダーに求められる力について、本校を舵取りしてきた立場から発言しました。有馬先生からは、本校の「サイエンス」「グローバル」両面への取組について高い評価をいただくこともできました。

このシンポジウムは８月９日（土）午後２時から「ＮＨＫ　Ｅテレ」で放映予定です。

【JOIDES Resolution号（JR号）見学ツアー】（６月２日）

希望する生徒２５名が参加しました。 ２００９年以来５年ぶりに日本へ寄港したJR号を見学するにあたって、生徒はJR号についての事前学習を行い。当日は実際に船の中を巡りながら、海外の研究者の方からの説明（英語）も受け、積極的に質問をしていました。普段見学することのできない施設を見学でき、とても貴重な体験となりました。

※JR(JOIDES Resolution)号は、国際深海科学掘削計画（IODP）というプロジェクトにおいて日本の海洋研究開発機構（JAMSTEC）が運行する地球深部探査船「ちきゅう」、ヨーロッパの欧州海洋研究掘削コンソーシアム科学運用組織（ESO）が運行する「特定任務掘削船（MSP）」とともに、世界中の海で科学的目的のための掘削を行っています。



【David Thompson Secondary School 来校】 】（６月７日～１２日）

バンクーバー姉妹校であるDavid Thompson Secondary Schoolの生徒１５名が来校しました。

本校生徒の家庭にホームステイをしながら、授業体験や文化交流を行うことで親睦を深めるという目的で行っています。ウェルカムパーティーでは音楽部が素晴らしい演奏を披露し、歓談をして交流を深めました。また、ホームステイを受け入れた本校生徒とともに授業を受け、放課後には剣道部員と剣道の体験をしました。

本校生徒も毎年３月に、バンクーバーへ２０名が赴き、ホームステイをしながら授業体験をしています。毎年の交流により絆が深まり、有意義な交流ができています。

【サイエンスリテラシーⅠ　「情報のサイエンス」】（６月９日）

横浜市立大学　立川　仁典　先生(横浜市立大学大学院生命ナノシステム科学研究科)にご来校いただきました。まずはじめに講義を行い、「京コンピュータ」に代表される「計算科学シミュレーション」がいかに我々の日常に密着しているかをお話いただきました。そして、後半はパソコンを用いて「生体分子のシミュレーション」を行いました。生徒たちは「タンパク質の分子」が温度などの条件によってどのように変化するのかをシミュレーションし、気がついたことを適宜ノートに書き留めていました。

【第６回　体育祭】（６月１３日）

前日まで雨が続き開催が危ぶまれましたが、当日は天候にも恵まれ体育祭日和となりました。

３０度を超える本当に暑い一日でしたが、生徒はそれぞれがクラスＴシャツを着てチームの団結力を高め、騎馬戦・二人三脚・綱引き・長距離走などで、普段の授業では見ることのできない迫力のある熱いプレーを見せてくれました。生徒会として購入した大太鼓を使った応援合戦は、本校体育祭に新たな伝統が加わった印象をうけました。

【全公立展】（６月１４日）

今年度もパシフィコ横浜で行われ、昨年同様３万５千人の参加がありました。しかし通路を広く確保したブースのレイアウトのせいか、入場規制するほどの混雑にはならず、スムーズな人の流れの１日でありました。本校で用意したパンフレットは約８千人の方にお持ち頂きました。

本校のブースを目指してご来場くださり、本校を注目してくださっている方々が多くいらっしゃることを感じ、うれしく思いました。　７月２６日（土）、２７日（日）には本校にて学校説明会を開催いたします。本校の魅力を丁寧に説明いたしますので、ぜひともご参加いただき、より一層本校をご理解いただき、入学を目指していただきたいと思います。

【サイエンス教室Ａ　「発見！横浜の自然～野島海岸自然観察教室～」】（６月１５日）

（公財）よこはまユースとの協働で、野島海岸をフィールドが開催されました。野島海岸は、横浜に唯一残された自然海岸の干潟です。この日の教室は、学校を飛び出しての開催です。公募で集まった小中学生４２名と本校理科調査研究部の生徒たちは、１２グループに分かれ、干潮時の干潟へ。各グループの調査テーマは「アオサに生息する生物」「漂着物の調査」など様々です。それぞれのグループで、調査の内容・方法、観察結果、仮説、採取したものや観察現場を撮影したデータをパワーポイントにまとめ、参加者全員が発表する報告会を行いました。観察で得た小さな発見が「なぜ？どうして？」と広がっていきました。

最後に、本校の小島教諭より観察データには数値が必要であること、そして記録することが大切であることが伝えられ、さらに今回の調査結果は本校が取り組んでいる太平洋の環境調査活動にも活用していきたいとの話がありました。

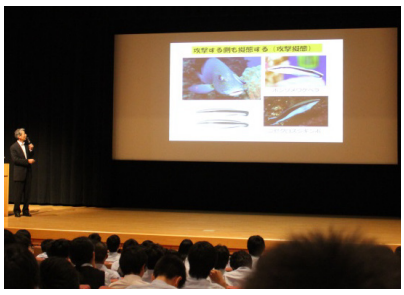
【サタデーサイエンス　「種田　保穂　先生　講演会」】（６月２１日）

今回は、テーマを「なぜ？ が考える力を育む」として、科学技術顧問の種田　保穂　先生（放送大学神奈川学習センター　客員教授、横浜国立大学　名誉教授）に、講義をしていただきました。

まず、身の回りの生き物や事象の不思議について着目する方法、推論する方法などを、トンボの羽の特徴のなぜ？の解明から「マイクロエコ風車」が発明された話や、動物のかたちは左右相称で植物は放射相称なのはなぜ？花の色がいろいろあるのはなぜ？などから説明していただきました。

その他にも、おとぎ話の生物学として「桃太郎」の家来はなぜ、さる・雉・犬なのか、鬼には角がありトラのパンツを履いているのはなぜなのかなど、世にある不思議に思うことには必ず「理由がある」ことを教えていただきました。

種田先生は「なぜ？ こうなのだろう」だけでなく、「なぜ？ こうではないのだろう」と「なぜ」の方向を変えて物事を観察し、真実を自然の中から見つけ出すために考えよう、「なぜ」と思った不思議の理由を解き明かしていこう、と呼びかけてくださり、生徒たちの心に響く講演になりました。



＜今後の主な予定＞

〇1学期終業式　〇鶴見区図書館共同事業　〇学校説明会　〇横浜市立大学実習
〇夏期講習　〇SSH全国生徒課題研究発表会　〇コアSSH沖縄研修　〇コアSSH小笠原父島研修
〇YSFH卒業生による進路フォーラム　〇横浜北地区合同説明会　〇横浜子ども会議